

東京都八王子東高等学校 2学年委員会主催

2学年進路講演会報告

「新聞の読み方」

講師：読売新聞特別編集委員 橋本五郎氏

平成22年10月6日(水)

14:00 ~

体育館にて



参加して下さった保護者のみなさま、ありがとうございました。

2学年生徒・全学年保護者を対象とした、進路講演会を行いました。

ズームインスーパーでお馴染みの読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏にご講演いただきました。

152名というたくさんの保護者の参加があり、みなさん、橋本氏の心に沁み
るお話に聴き入りました。

保護者の方より、感想をいただきましたのでご紹介します。

★S・Iさんより

10月6日に行われた二年生の講演会の講師は、ズームインスーパーなど、テレビでお馴染みの橋本五郎さんでした。

テーマは「新聞の読み方」。多面的な情報の捉え方を、尖閣諸島やローマ帝国等を例に挙げて話されました。今ホットな話題や世界史で学んでいるけれど活字でしか知らない時代を、様々な視点から見たお話は楽しく興味深いものでした。《鳥の目と虫の目の両方で世の中を見なければならぬ》という、ジャーナリストならではの言葉が印象に残りました。

後半は、話題をがらりと替えて、橋本さんにとっての人生の師というテーマで、高校の校長先生、癌闘病時の医師、そして橋本さんのお母様の三人から学んだ言葉や生き様について語られました。中でも印象に残ったのは、お母様のお話でした。夫を早く亡くした後、6人の子供を大学まで（国立大学4名私立2名だそうです）女手一つで育て、亡くなるまで子供の事だけを思い続けたお母様の生き様を語られました。家族や子供の為にだけ生きて正に昭和の母親の象徴とも言えるお母様のお話には、私たち一人一人が持っている母親の姿を彷彿させられ、同時に子を持つ母としての立場にも共感し感動しました。

テレビではにこにこ温和な印象の橋本さんですが、未来を担う学生たちの心に何かが残ればとの思いで語ってくれたメッセージは熱く、心に沁み入りました。

★K・Sさんより

長男の出産以来、私が専業主婦となった我が家の朝は日本テレビ「ズームイン」で始まっています。

テレビを通じて見ていた橋本先生にこうして身近でお会いする機会が訪れるとは夢にも思いませんでしたが、実際にお話しを伺えることが出来て感激しております。

講演でお話しいただいた、ご自身の大病を乗り越えて番組に復帰する話は、まさにリアルタイムで見えておりましたので、その時のお姿をまざまざと思い出しました。その折に、かなりおやつれのご様子で無理をされているのではないかと心配していた記憶が残っています。

ただ、それから日を追うごとに以前の元気を取り戻されていく姿が私にも解かり、先生の仕事に賭ける情熱を目の当たりに見る思いがいたしました。

担当医師が橋本先生にされたアドバイスは、本当にその通りだったと思います。

講演の最後には先生のお母様のお話がありましたが、秋田に生き秋田に暮らされたお母様の素晴らしさ、苦勞されているのにその苦勞を家族にも見せない気丈さに心打たれました。きっと会場にいた皆さんも自分たちのお母さんを思い浮かべながら聞き入っていたのではないかと思います。

先生のお話を聞きながら、会場の体育館には目には見えない皆さんそれぞれのお母さんの笑顔が溢れ、秋の日だまりのような温かさが感じられました。

★M・Sさんより

「汝、何のためにここにありや」。この問いにいつもたちどころに答えられるように、自覚を持って生きて欲しい。この言葉が一番胸に残っています。折りしも橋本氏が高校のときに校長先生から聞いたとおなじく2年生、これから進学、社会に出て大小さまざまな岐路に立つとき、また浮かれているとき、壁にぶち当たったとき、この言葉を思い出し子供たちは再び前を向いて歩んで行ってくれるものと思います。そしてまた日常に流されがちな私も折に触れこの言葉を思い出し、過ごしていこう、と感じています。

★C・Sさんより

尖閣諸島を巡る日中問題などタイムリーな話の《前半》と、「人生について」とでも言うような感動的な《後半》と、生徒にも保護者にも解りやすく、また考えさせられる内容で、時間の経つのがあっという間でした。

(私的には、息子が学校を欠席していたので、この話を聞かせたかったな～と思い、途中からメモを録っていたのですが、帰ってから息子に説明しても上手くニュアンスが伝わらず、やはり生の講演に勝るもの無しという感じでした(ー:))

★T・Mさんより

いつも拝見している方にお会いできただけでも嬉しかったです。新聞でしっかり情報を得ることとそれを鵜呑みにしてはいけないことを学びました。またおひと柄がでる温かいご家族のお話しも聞けてよかったです。夕食時の子供との共通の会話でき参加して良かったと思いました。

以上、5名の方、
ありがとうございました。

